

# 食道切除後頸部縫合不全に対する

## 経皮経瘻孔ドレナージの有用性に関する検討

### 研究対象：

2011年1月より2014年12月までに国立がん研究センター東病院にて胸部食道がんに対し、食道切除＋頸部吻合の手術を受けた患者さんを対象とします。

### 研究の概要：

食道がんはその発生部位、占居範囲、深達度、転移の有無、患者さんの状態などにより複数の治療選択肢がありますが、重要臓器(心臓、大動脈、気管など)への浸潤や遠隔転移を認めない患者さんの治療の中心は外科手術です。近年、手術の手技の向上や手術機器の進歩、周術期管理の工夫により、食道手術の安全性は高まりつつありますが、他の消化器がんの手術(胃がんや大腸がんなど)に比べると、術後の合併症の頻度は依然として高いのが現状です。合併症の中でも縫合不全は時に致命的な病態となり得る合併症であり、その適切な診断・治療は大変重要となります。

### 研究の意義：

食道切除後の縫合不全に対する治療は各病院によって様々であり、標準治療が確立されていないのが現状です。当院食道外科では、縫合不全を認めた患者さんに対して、経口の食道造影所見を参考にしながら、可及的早期に頸部の創より経皮経瘻孔ドレナージ(PTD)を施行しています。本研究によりPTDの有効性を立証された場合、新たな治療の選択肢となると予想しています。

### 目的：

本研究では、食道術後の頸部縫合不全を認めた患者さんにおいて、PTDを施行することにより、食事を摂取できるまでの期間や入院日数が短縮するかを調べることを目的に行います。

### 方法：

電子カルテより、対象期間内に食道切除＋頸部吻合を行った患者さん、またその内術後に縫合不全を認めた患者さんに関する臨床データを集計します。縫

合不全に対するPTDの有無により、食事摂取開始までの期間や全体の入院日数を比較・検討します。

**個人情報保護に関する配慮：**

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別のため、新たに番号を用いて管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究での利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 食道外科 金森淳

FAX 04-7131-9960 / TEL 04-7133-1111 (内線 91119)